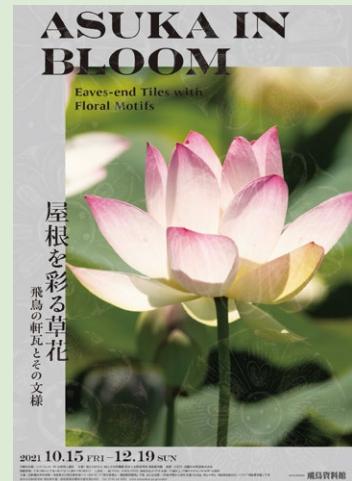


令和3年度 飛鳥資料館秋期特別展「屋根を彩る草花—飛鳥の軒瓦とその文様」

飛鳥は日本で最初に本格的な寺院がつくられた地として有名です。飛鳥には7世紀を通じて数多くの寺院が建立されました。また、その屋根には本格的に瓦が葺かれるようになります。瓦葺きの建物は、造営に高度な技術が必要とされ、そしてなにより、それまでの建物と比べて見た目も大きく変化しました。したがって、この時代には、瓦葺きの屋根をもつ寺院は權威や先進文化の象徴でもありました。その瓦屋根の軒先には導入の初期から様々な草花の文様があしらわれ、特別な世界観をあらわしています。

今回の展覧会では、飛鳥地域で使われた古代の軒瓦文様に焦点を当てます。軒瓦文様のモチーフは東アジアやそのさらに西の地域にルーツがあります。代表的なものにはハスの花(蓮華)や唐草の文様がありますが、同じ文様でも、拡散し、普及する過程で様々なバリエーションが生み出されました。日本にもたらされた軒瓦文様の変化と、飛鳥を中心としたその後の展開をご覧ください。 (飛鳥資料館 清野陽一)

(飛鳥資料館 清野 陽一)



会期：2021年10月15日（金）～12月19日（日）

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）／休館日：月曜日（月曜が休日の場合は翌平日）

(11月3日(水・祝)は無料入館日)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問合せ：**0744-54-3561**

平城宮跡資料館 令和3年度 秋期特別展「地下の正倉院展—木簡を科学するⅡ—」

平城宮跡資料館では、毎年、秋期特別展として「地下の正倉院展」を開催し、平城宮・京跡出土木簡の実物展示をおこなっています。本年は「木簡を科学するⅡ」と題し、木簡のモノ（木製品・木質遺物）としての性質に着目した分析・調査や、自然科学分野の手法を応用した木簡研究の成果等をご紹介します。

2014年の「地下の正倉院展」では、木簡の樹種や保存処理の方法、木製品としての特質等に焦点を当てた展示をおこないました（「木簡を科学する」）。本年の展示は、その続編に位置づけられます。文字資料としての側面に注目が集まりがちな木簡に対して、通常とは少し異なる切り口から光を当てる展示となっています。また、最新の調査・研究の成果から、将来の、さらには未来の木簡研究のあり方にも想いを馳せていただけますと幸いです。（都城発掘調査部 山本祥隆/企画調整部 藤田友香里）

会期：2021年10月9日（土）～11月7日（日）

1期：10/9(土)～10/24(日) 2期：10/26(火)～11/7(日) ※展示替え 10/25(月)

開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）／休館日：月曜日

お問い合わせ： 0742-30-6753(連携推進課)

■ 記 錄

文化財担当者研修

- 近現代建築保存活用課程
7月5日(月)～7月9日(金) 10名
 - 木質文化財の科学的調査課程
7月13日(火)～7月16日(金) 4名

平城宮跡資料館 令和3年度春期特別企画展

4月29日(木)～6月27日(日) 978名

※「新型コロナウイルス感染症奈良県緊急対応指針」に基づき、下記の期間を臨時休館いたします。

5月2日(日) - 6月20日(日)

第1部「平城宮跡保存運動のさきがは」土極歴壇

第1部 | 『城西跡保存連
合建設式』二〇〇四年 |

第2部「大地鳴動—大地の知らせる危機と私たちの生活—」

飛鳥資料館 第12回写真コンテスト

7月16日(金)～9月12日(日) 2,112名

「飛鳥の木」

平城宮跡資料館 令和3年度 夏期企画展

8月7日(土)~9月12日(日) 2,424名

「奈良を測る—森蘊の庭園研究と作庭—」

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>
Eメール koho_nabunken@nich.go.jp
発行年月 2021年9月